

I 種 苗 生 産

石川市、沖縄市、与那城村、名護市の各漁協から健全な抱卵親ガニを選別購入し、陸上輸送（1～2時間）した。これを屋内4ℓ水槽で流水飼育し、ふ化前日に、弱通気した0.5ℓポリカーボネイト水槽に1～2尾/槽収容した。そのふ化槽に夜間はワムシを10個/ml以上収容し、幼生がふ化直後から摂餌できるようにした。翌朝、ふ化槽の中で良好に浮上遊泳している幼生をサイフォンで幼生飼育槽に収容した。

親とふ化幼生の状況を表1に示した。5、6月に比べ7月のふ化幼生湿重量が軽くなっていた。

表1 親とふ化幼生の状況

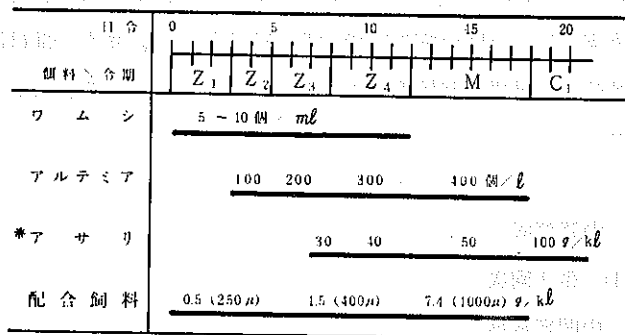
回次	購入月日 月/日	購入と *1 ふ化親数	*2 ふ化率 %	ふ化親の 平均体重 g	ふ化幼生 *3 数 万尾	幼生数/親 万尾	幼生体重 μg/尾
1	5/6～8	29-18(14)	62	284	595	43	63
2	6/2～4	31-25(15)	77	277	648	43	67
3	7/21～23	9-8(4)	89	290	239	60	56

- *1 購入数-放卵親数（種苗生産に使用した親数）
- *2 放卵親数/購入数
- *3 種苗生産に供した幼生数

幼生の飼育は、屋内50ℓ及び100ℓ円型水槽を使用した。給餌基準を図1に示した。飼育水は、満水時の3/5水量で幼生を収容し、以後、通称海産クロレラ、珪藻、または海水を1/10量/日注水し満水とした。満水後からZ₄まで1/10～1/5量/日の換水を行った。Z₁～Z₄まで飼育中のクロレラ濃度を50万細胞/mlに維持し、珪藻濃度も1万細胞/ml以上維持に留意した。M期から1/3～1/2回転/日の流水を行った。Z幼生の計数は、柱状採水法で幼生収容当日から各令期毎に夜間に行った。水質モニターによりDO、pH、WTの24時間観測を行った。

幼生の飼育結果を表2に示した。5月上旬から8月中旬にかけて3回次行い、各回次3水槽延9水槽の飼育を行った。

1回次の通気は、円型配管塩ビパイプを用いた。2水槽で、飼育期間中漸減し、1水槽ではM期初期に大量減耗した。1回次は、3.4万尾の



* アサリは、配合飼料投餌の場合1/2量

図1 給餌基準